02月28日
K05面
岡田医院

Q：原発性副甲状腺機能亢（こう）進症と診断されました。どのような病気ですか。

A：副甲状腺は、甲状腺の裏側に4個ある、米粒の半分くらいの大きさの臓器です。甲状腺とは全く関連はなく、上皮小体とも呼ばれます。副甲状腺ホルモン（パラトルモン・略称PTH）を分泌し、カルシウムおよびリン酸の調節をしています。PTHは、ビタミンDと共に、カルシウムを骨から血液中に送り出したり、腎臓や腸から吸収したりして、血液中のカルシウム濃度を上昇させて一定に保ちます。

原発性副甲状腺機能亢進症とは、副甲状腺の過形成・腺腫・がんを原因として、PTHが過剰に分泌され起こる代謝性疾患です。最近は健康診断などで偶然、高カルシウム血症から診断に至る症例が増えています。

高カルシウム血症による口の渇き・多飲・多尿・倦怠（けんたい）感・食欲不振・吐き気などがみられますが、症状の乏しい場合でも、副甲状腺機能亢進が長期間続くと、骨粗しょう症や尿路結石、腎障害を生じることがあります。治療の原則は、腫大した副甲状腺を摘除する手術となります。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2―9―12、ニシコー北口駅前ビル2F）
☎055・288・1801